

# 効果的な臨地実習に向けて実施した看護系大学と実習病院との協働学習会の効果 —看護教員の視点から—

(地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 看護部)

領家 健 岩崎 由美子 森田 志保 伊勢戸 和美  
森川 久美 吉岡 洋子 半場 江利子

## 要 旨

私たちは、看護教員と実習指導者が臨地実習における学生の良質な学びに向けた教育実践について、学び合い、語り合い、協働的に探究することを目的とした協働学習会を企画・運営した。本研究の目的は、協働学習会の参加によってもたらされた効果を、看護教員の視点から明らかにすることである。今回、研究に同意の得られた看護教員に対して、フォーカスグループ法による半構造化インタビューを行なった。インタビュー内容は、協働学習会における看護教員の経験およびその経験が実習指導に与えた影響であった。

協働学習会の意見交換やグループ討議により、実習指導者についての理解や親和的な関係性が深まり、協力関係が促進された。看護教員と実習指導者が、協働学習会への参加を通して同僚性を築くことで、看護学生が臨地において看護について学ぶ最適な環境を提供できる。

(京市病紀 2020；40(1)：27-33)

key words：看護教員，実習指導者，協働学習会，同僚性，連携・協働

## 緒 言

最近の医療の急速な発展とともに、看護師は質の高い援助を求められ、状況に応じた適切な判断や行動化する看護実践能力が求められている。看護実践能力を養うには、臨地実習の充実が不可欠となる。看護の臨地実習では、学生は対象者に向けて看護行為を行い、その過程で、学内で学んだものを自ら実地に検証し、より一層理解を深める。看護実践能力は、学生が行う看護実践を通して、看護サービスを受ける対象者と相対し、緊張しながら学生自ら看護行為を行うという過程で育まれていくものとされており、十分な指導体制と適切な臨地実習の場の確保が必要である<sup>1)</sup>。

近年の学生においては、核家族・少子高齢化・SNSを主とした間接的コミュニケーションの多様化により人間関係が希薄化し、また集団で行動することが少ないことにより、生活体験が減少し、共通体験が少なくなる傾向にある。臨地実習においては、不慣れな環境、実践する看護技術、日常であり接する機会のない高齢患者とのコミュニケーション、臨床指導者や病棟スタッフへの報告など精神的緊張も高い。学生が実習から多くの学びを得ていくためには、大学教員と臨床指導者が学生の学ぶ過程を共有し指導に関わることで、その前段階として学生が安心して実習に臨むことのできる環境調整が必要であり、これらを包含した連携・協働が求められる<sup>2)</sup>。

私たちは今回、看護教員と実習指導者が、学生の臨地実習における良質な学びに向けた教育実践について協働的に探求するため、協働的学習会を企画・運営し、継続的に活動した。協働的学習会は臨地実習に関わる看護教員と実習指導者の実習に関する知識の習得や意識の変革だけでなく、協働における同僚性の獲得になると考えた。

## 研究目的

看護教員と実習指導者が臨地実習における学生の良質な学びに向けた教育実践について、学び合い、語り合い、協働的に探究することを目的とした協働学習会を企画・運営した。本研究の目的は、協働学習会の参加によってもたらされた効果を、看護教員の視点から明らかにすることである。

## 研究方法

### 1. 研究デザイン 質的記述的研究デザイン

### 2. 協働学習会の内容

対象：B病院の実習指導者とA看護系大学の看護教員

協働学習会の目標と目的：看護教員と実習指導者が臨地実習における看護学生の良質な学びに向けた教育実践について、学び合い、語り合いながら協働的に探求する

- (1) 効果的な臨地実習に向けた教育方法についての実践的理解を深め、協働的に探究する。効果的な臨地実習に向けた学習環境のあり方とその整備について相互に理解を深め、探究する。
- (2) 看護学生の個性を尊重し、その個性に即した看護実践能力や資質の形成を促す教育方法について相互に理解を深め、探究する。
- (3) 看護教員・実習指導者と看護学生が教育的関係性を築き、教授-学習活動における省察的契機を与えることのできる教育評価の方法について協働的に探究する。
- (4) 効果的な臨地実習について、看護教員と実習指導者

が協働的に探究する過程を通して相互の役割理解を深め、同僚性（互いに支え合い、楽しみ合い、成長し、高め合っていく関係）を構築する（表1）。

### 3. 研究参加者

研究参加者は、次の2つの条件を満たし、研究協働に同意の得られたA看護系大学の看護教員4名とする。

- (1) 本学習会に参加していること
- (2) 本学習会に参加した後に、看護学生の実習指導に直接携わった看護教員であること。

### 4. データの収集方法および分析

研究に関する同意の得られた看護教員4名に対して、フォーカスグループ法による半構造化インタビューを行った。フォーカスグループインタビューは約90分実施した。研究者が2名入り、インタビューガイドにそってインタビューを実施した。インタビュー内容は、協働学習会における看護教員の経験、その経験が実習指導に与えた影響であった。

データ分析方法は、質的な内容分析の手順に準じて行なった。録音機器で録音したインタビューデータを逐語録とし、逐語録を繰り返し読み、語られた内容を出来事ごとに要約しコード化した。コードを相違点、共通点に

ついて比較分析することにより、カテゴリ化した。カテゴリ相互の関係性を検討し、その特徴を明確化していった。なお、分析結果の妥当性は、分析過程において、質的研究法についての知識や経験を有する研究者にスーパーバイズを受けること、研究者間でディスカッションを行い、合意が得られるまで検討し、厳密性を確保した。また研究協力者に対するメンバーチェックングを受けることで担保した。

### 5. 倫理的配慮

本研究はB病院倫理審査委員会の承認を得て実施した。A看護系大学の看護教員のうち、協働学習会に参加し、研究に協力が得られた看護教員4名にフォーカスグループインタビューを実施した。

研究参加者には、参加および辞退の自由、匿名性、プライバシーの保護について口頭および文章で説明し同意を得た。本研究の協力はあくまでも任意であり、所属されている組織の業務との関連は一切なく、協力の有無によって、個人および組織に不利益を与えることがないことを説明し同意を得た。また、フォーカスグループ法によるインタビューでは、録音したデータは速やかに匿名化した逐語録にした。

表1 協働学習会のスケジュール

第1回協働学習会：臨地実習における看護現象の教材化（講義・グループ討議）2時間
[概要] 看護学生が受け持つ患者の状況から、看護学生は、どのようなことをどのように学ぶことができるのか、また、実習指導者・看護教員は、その学びをサポートすべきかについて、理論的観点を踏まえてディスカッションする。
第2回協働学習会：学生が良質な学びを経験するための学習環境（講義・グループ討議）2時間
[概要] 学習環境に関する講義を聴講し、「どのような実習環境が認知的、情緒的に学びやすいのか」について理論的観点を踏まえてディスカッションする。
第3回協働学習会：効果的な実習展開を導く教授行為（講義・グループ討議）2時間
[概要] 深い思考を促すための発問や指示、説明、板書の方法や工夫、モデリングとコーチングの方法、そして、学習意欲を高めるかわりに関する講義を聴講し、効果的な実習展開を導くための教授行為についてディスカッションする。
第4回協働学習会：実習評価の方法論：ルーブリック評価（講義・グループ討議）2時間
[概要] 臨地実習における学習目標とその評価について、ディスカッションを通して共通理解する。

表2 協働学習会における看護教員の経験

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
実習指導者についての理解	実習指導者の学生指導における考えや意図の理解	実習指導者の学生指導における考えを知ることができた
		実習指導者が学生を大事にして関わってくれる理由が知れた
		実習後に実習指導者と学生指導について協議することを申し分けなく思っていたが、学習会で意見交換する中で、学生指導のためにも実習指導者が望んでいることであることがわかった
		実習指導者が学生のことをすごく考えて「場」を作ってくれていることを知ることができた
	実習指導者のタイプの理解	実習指導者がどういうタイプの人か理解できた
		実習指導者と教員の有するキャラクターが相互に理解できた
	実習指導者の看護に対する考えの理解	実習指導者の看護に対する考えを知ることができた
	実習指導者と教員の実習指導における考えの共通点と相違点の理解	実習指導者の学生指導における考えや悩みが教員と同じようなものであることがわかった
		実習指導者の効果的な指導方法を選択する根拠が理解でき、看護教員と同様なことがわかる
		自分と実習指導者の学生指導に対する考えや感覚の違いを理解できた
実習指導者の臨床での学生指導の工夫を聴くことでの学び	実習指導者の臨床での学生指導の工夫を聴くことでの学び	実習指導者から臨床での学生への関わり方の工夫を教えてもらう機会となった
実習指導者との親和的な関係性の深まり	実習指導者への親近感の醸成	教員の名前を呼んでももらえるくらい関係性が近くなった
		実習前に行うことは実習指導者と教員が顔見知りになることができた
		教員のことを名前でも呼んでももらえることが圧倒的に増えた
		自分のことを親しみをこめて表現してもらえて嬉しい
	実習指導者との信頼関係の深まりの実感	教員と指導者の信頼関係が深まった

## 結 果

### 1. 研究参加者の概要

研究参加者は4名で、平均年齢34歳(30-38)、平均臨床経験年数7.25年(4-12)、平均臨床指導年数3年(1-5)であった。

### 2. 協働学習会への参加に関する看護教員の語りの結果

研究参加者となった看護教員の語りを分析した結果、6コードからなり、18サブカテゴリ、7カテゴリが抽出できた。この7カテゴリは、1) 協働学習会における看護教員の経験、2) 協働学習会における経験が実習指導に与えた影響の2つに分類できた。以下、カテゴリは【 】、サブカテゴリは《 》で示す(表2, 3)。

#### 1) 協働学習会における看護教員の経験

##### (1) 【実習指導者についての理解】

このカテゴリは、《実習指導者の学生指導における考

えや意図の理解》、《実習指導者のタイプの理解》、《実習指導者の看護に対する考えの理解》、《実習指導者と教員の実習指導における考えの共通点と相違点の理解》という4サブカテゴリで構成された。

看護教員は、「実習指導者の学生指導における考えを知ることができた」、「実習指導者が学生を大事にして関わってくれる理由を知ることができた」、「実習後に実習指導者と学生指導について協議することを申し分けなく思っていたが、学習会で意見交換する中で、学生指導のためにも実習指導者が望んでいることであることがわかった」、「学生のことをすごく考えて場を作ってくれているところを知ることができた」と語るように、協働学習会に参加することで《実習指導者の学生指導における考えや意図の理解》をすることが出来ていた。また、「実習指導者がどういうタイプの人なのか理解できた」、「実習指導者と教員の有するキャラクターを相互に理解できた」と語るように、協働学習会に参加し、実

表3 協働学習会における経験が実習指導に与えた影響

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
実習指導者への学生指導における相談し易さ	実習指導者への学生指導における相談し易さ	実習指導者と話す機会が増え、実習指導における相談、情報共有がし易くなる
		教員が指導者を探りにいく必要がない
学習会で共有した学びを活かした実習指導者との連携の実現	実習指導者と話し合ったことを実習場面での活用	実習指導者の普段の学生への対応の仕方を知ることで実習指導に活かすことができた
		事例検討と類似した学生がいた時に実習指導者とディスカッションしたことを実習の場面で活かすことができた
	学習会での学びを活かした学生指導における実習指導者との対応策の検討の実現	実習指導者と一緒に学生への対応を考えられた
		実習に躓いている学生の状況を実習指導者と共有し、到達目標を調整することで有効な指導が行えた
		学生の考えを引き出す関わり方について一緒に学んだことを実践することで、実習指導者と実習指導における達成感を共有できた
実習指導者との実習指導における一体感の生起	実習指導者と看護教員が悩みを共有することで共感し、実習指導における一体感が得られた	
実習指導者と学生指導におけるズレの回避	実習指導者と学生指導におけるズレの回避	学生指導において実習指導者と教員との指導内容のズレがなくなった
		実習指導者と学生指導における意見が合わないということが無くなった
学生指導における良い影響の実感	学生指導における良い影響の実感	学生指導における良い効果を実感した
		学生にもいい影響を与えていると思えた

習指導者と意見交換をしたり、学び合ったりすることは《実習指導者のタイプの理解》につながっていた。さらに、「実習指導者の学生指導における考えや悩みが教員と同じようなものであること」、「実習指導者の効果的な指導方法を選択する根拠が理解でき、看護教員と同様なことがわかる」だけでなく、「自分と実習指導者の学生指導に対する考えや感覚の違い」といった《実習指導者と教員の実習指導における考えの共通点と相違点の理解》が出来ていた。

## (2) 【実習指導者の臨床での学生指導の工夫を聴くことでの学び】

このカテゴリは、《実習指導者の臨床での学生指導の工夫を聴くことでの学び》の1サブカテゴリで構成された。

協働学習会でされる事例検討は、実習指導者の意見や考え、臨床ならではの生活指導の工夫について聴く機会となる。看護教員は、「ベッドサイドに連れていき方、学生ってこういう場面あったらおいでおいでと、まきこみかたうーんそれすごいなど、意図的にそれをやっけて、あえてつばねることもあるのだと教えてもらうことがあった」と語るように、協働学習会は、《実習指導者の臨床での学生指導の工夫を聴くことでの学び》を得ることが出来ていた。

## (3) 【実習指導者との親和的な関係性の深まり】

このカテゴリは《実習指導者への親近感の醸成》、《実習指導者の信頼関係の深まりの実感》、《実習指導者との実習指導における一体感の生起》の3サブカテゴリで構成された。

看護教員が、協働学習会に参加することで、「実習指導者と教員が顔見知りになることができた」、「教員のことを名前で呼んでもらえることが圧倒的に増えた」、「教員の名前を呼んでもらえるくらい関係性が近くなった」と語るように、協働学習会に参加し、互いに学び合うことは《実習指導者への親近感の醸成》につながっていた。

また、「実習指導者、看護教員お互いに考えて悩んでいるとわかるだけでも、一緒になって指導していこうと、一体感を作れると思った。」と《実習指導者の信頼関係の深まりの実感》や《実習指導者との実習指導における一体感の生起》となった。

## 2) 協働学習会における経験が実習指導に与えた影響

### (1) 【実習指導者への学生指導における相談し易さ】

このカテゴリは、《実習指導者への学生指導における相談し易さ》の1サブカテゴリで構成された。

看護教員は、実習指導者と協働学習会に参加し、意見交換において語り合ったり、テーマに即して学び合ったりすることで、それまでよりも話す機会が増える。このような協働学習会におけるコミュニケーションを契機として、「実習指導における相談、情報共有がし易くなった」、「教員が指導者の思いや考えを探りにいく必要がな

くなった」と、実習指導者への学生指導における相談し易さを感じており、実習指導者との学生指導における協力関係の促進につながっていた。

#### (2) 【学習会で共有した学びを活かした実習指導者との連携の実現】

このカテゴリは、《実習指導者と話し合ったことを実習場面での活用》、《実習指導者と学生指導において対応策の検討》、《講義内容を実習指導者が実践し、教員と共有》の3サブカテゴリで構成された。

協働学習会では、実習における看護現象の教材化や発問などの教授行為の具体的な活用など、看護学生の看護学実習における学び、サポートするための方法について、実際の事例やそれに近い模擬事例を用いたグループ討議を行う。看護教員は「実習指導者の普段の学生への対応の仕方を知ることによって実習指導に活かすことができた」、「事例検討と類似した学生がいた時に実習指導者とディスカッションしたことを実習の場面で活かすことができた」と語り、《実習指導者と話し合ったことを実習場面での活用できる》と感じていた。また「実習指導者と一緒に学生への対応を考えられた」、「実習に躓いている学生の状況を実習指導者と共有し、到達目標を調整することで有効な指導が行えた」と語るように、看護教員は協働学習会において事例検討などの学びを活かすことで《実習指導者と学生指導において対応策の検討》が出来るようになっていた。協働学習会では毎回学習テーマを決めて、それに合わせた講義と小グループでの事例検討を行っている。看護教員は、このように協働学習会で学び合った《講義内容を実践し、達成感の共有》をすることができた。

#### (3) 【実習指導者との学生指導におけるズレの回避】

このカテゴリは《実習指導者と学生指導におけるズレの回避》の1サブカテゴリで構成された。

実習指導者と看護教員は、学生への教育や指導の方法やあり方に対する考えや思い、目指したい学生像や到達目標などズレやジレンマを感じる事が少なくない。看護教員は、協働学習会への参加を通して、「学生指導において実習指導者と教員との指導内容のずれがなくなった」「実習指導者と学生指導における意見が合わないということが無くなった」と語るとおり、《実習指導者と学生指導におけるズレの回避》ができていたことを実感していた。

#### (4) 【学生指導における良い影響の実感】

このカテゴリは《学生指導における良い影響の実感》の1サブカテゴリで構成された。

看護教員は、「学生指導における良い効果を実感した」、「学生にもいい影響を与えていると思えた」と語るように、協働学習会への参加を通して実習指導者との語り合いや学び合いに対して、《学生指導における良い影響の実感》となった。

## 考 察

看護を必要とする人々の心身の状態とそれに対する看護の必要性の判断など、臨地で目の当たりにする事象に基づいて深い思考を伴いながら学べるようにするには、実習指導者と看護教員の連携・協働が重要である<sup>3)</sup>。また、看護教員と実習指導者の連携・協働において、互いの役割や本質を理解して尊重し合える関係を構築する必要性が報告されている<sup>4)</sup>。このような関係性を構築する上で、実習指導者とのコミュニケーションや対話を通じた相互理解が重要になる。本研究において協働学習会への参加は、看護教員にとって【実習指導者についての理解】が示すとおり、実習指導者の学生指導における考えや意図、看護に対する考え、実習指導者と看護教員の実習指導における考えの共通点と相違点を理解する契機となっている。また学生指導において関わり合う実習指導者がどのような人なのか、実習指導者のタイプやキャラクターを知ることにも出来ている。

当院では、これまでも実習開始前に、実習校の看護教員と実習内容や看護学生の現状の共有を目的とした連絡協議会を1時間程度実施してきたが、それだけでは実習指導者と看護教員の関係性を育むことは難しい。しかし、よりよい看護学実習について共に考えることをねらいとした協働学習会では、看護教員と実習指導者が、年間を通じて数回にわたって講義を聴き、事例検討でのグループ討議において互いの思いや考えを語り合い、対話を重ねることが可能になる。また、その過程において実習指導者のタイプやキャラクターを知り、コミュニケーションの取り方を考慮することが可能になると考える。さらに、看護教員は【実習指導者の臨床での学生指導の工夫を聴くことでの学び】について語っており、それは、実習指導者も同様の経験をしていることが推察できる。このような語り合いや学び合い中で相互理解が促進され、【実習指導者との親和的な関係性の深まり】を感じる事が出来たのではないかと考える。

このような【実習指導者についての理解】、【実習指導者の臨床での学生指導の工夫を聴くことでの学び】、【実習指導者との親和的な関係性の深まり】といった協働学習会への参加を通じた経験が実習指導にもたらした効果として、看護教員は【実習指導者への学生指導における相談し易さ】について語っていた。GabersonとOermann<sup>5)</sup>は、臨床現場に入っていく看護教員は、医療保険施設のシステムの中でよそ者扱いされやすく、それに対する防衛反応から看護スタッフとの不適切なコミュニケーションが生まれ、看護学生の学習が息苦しいものにしてしまいがちなることを指摘している。このようなマイナス結果は、看護教員と臨床の看護スタッフが「よい仕事関係やコミュニケーションを確立し、それらを維持していることで避けることができる」と述べており<sup>5)</sup>、協働学習会はその契機となっていると言える。

臨床環境における看護教育は、経時的な患者の状態とケアの変化に関して、リフレクションとナラティブによる理解と掘り下げが特に強調される。そのため、実習指

導においては、臨床での経験を教材とした看護学生との対話に基づくりフレクションが欠かせない。黒田と和住<sup>6)</sup>は、臨床の看護職は、実践は得意だが説明することを苦手とする者が多く、学生や自分自身が経験した看護の現象の意味や、そこから何を学習できるかについて学生と対話することが苦手であると指摘している。一方、看護教員は経験を教材化することに慣れており、また学生の看護役割モデルとして、何が必要であるかをよく知っていると述べている。前述のとおり、本研究における協働学習会は、看護教員と実習指導者が、実習指導者の学生指導における考えや意図、看護に対する考え、実習指導者と看護教員の実習指導における考えの共通点と相違点を理解し、学生指導における考えや悩みを共有しながら、効果的な実習指導の方法について学び合う機会となっている。この体験は臨床の現場で学生指導を行う際に、看護教員と実習指導者が得意な面、苦手な面を補完し合い、個々の強みを尊重し、お互いの役割を活かした学生指導が行える。本研究の看護教員は、【協働学習会で共有した学びを活かした実習指導者との連携の実現】が示すとおり、実習指導者と話し合ったことを実習場面で活用したり、協働学習会での学びを活かして実習指導者と学生指導における対応策を検討したりすることができており、実習指導者との達成感を共有している。それは、【実習指導者と学生指導におけるズレの回避】にもつながっている。つまり、【実習指導者についての理解】は、良好な関係性の構築だけでなく、互いの有する力を活かし合ったり、補完し合ったりしながら、効果的な実習指導の展開が可能になると考える。このような体験は、協働学習会への参加が、【学生指導における良い影響の実感】をもたらしていることが推察できる。

教育に対する同じ展望を持ち、その展望の実現に向かって各々が責任を引き受け合う関係の中で生まれる信頼による同僚関係は「同僚性 (collegiality)」と呼ばれ、教育学を中心として、このような互いに成長し、高め合っていく性質をもった共同体を職場内外で育むことの重要性が提唱されている。秋田<sup>7)</sup>は、同僚性が形成される起点になる情動として、「他者との偶然の出会いやかかわりが、『自分に関係のあること、わたくしごと』と思え、その人たちと共に学ぶことが自分に何か意味のあるという感覚がもてること」としている。協働学習会は、看護教員と実習指導者がよりよい臨地実習の実現という同じ展望を持ち、臨地実習における学生の良質な学びに向けた教育実践について、学び合い、語り合い、協働的に探究することを目的とするものであった。看護教員は、そのような活動への参加が実習指導に肯定的な影響を及ぼしていることを感じており、実習指導者と共に学ぶことが自分にとって意味のあるという感覚がもてる同僚性の形成につながっていると考えられる。臨地は、看護学生

が看護観を育む上で重要な学びの場である。看護教員と実習指導者が協働学習会への参加を通して同僚性を築くことで、看護学生が臨地において看護について学ぶ最適な環境を提供でき、看護観を育むことの支援につながると考える。

## 結 論

本研究では協働学習会での効果を明らかにした。その効果は以下であった。

### 1) 協働学習会における看護教員の経験

協働学習会の意見交換やグループ討議が、【実習指導者についての理解】や【実習指導者との親和的な関係性の深まり】となり、【実習指導者の臨床での学生指導の工夫を聴くことでの学び】が実習指導における教育経験となった。

### 2) 協働学習会における経験が実習指導に与えた影響

【実習指導者への学生指導における相談し易さ】など【学習会で共有した学びを活かした実習指導者との連携の実現】が行え、実習指導者との学生指導における協力関係の促進となった。有効な連携は、【実習指導者との学生指導におけるズレの回避】となり、【学生指導における良い影響の実感】に繋がった。

## 引用文献

- 1) 文部科学省：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会 看護学教育モデル・コア・カリキュラム, 2017 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm)
- 2) 中村伸枝, 竹中沙織, 仲井あや, 他：学生の看護実習を通じた学びの特徴と大学教員と臨床指導者の連携・協働のあり方. 千葉大学大学院看護学研究科紀要 2014; 36: 21-26.
- 3) 厚生労働省：看護教育の内容と方法に関する検討会報告書, 2011, p13
- 4) 椎葉美千代, 齋藤ひさ子, 福澤雪子：看護学実習における実習指導者と教員の協働に影響する要因, 2010, p161-176
- 5) Gaberson, B, Oermann, H：臨地実習のストラテジー, 勝原裕美子他訳, 医学書院, 2003, p47
- 6) 黒田久美子, 和住淑子：臨地実習指導の充実に向けた看護系大学と臨地実習施設の協働のための研修ニーズ-看護系大学・臨地実習施設への質問紙調査より, 2010, p69-74
- 7) 秋田喜代美：教員としての成長を支援するために必要な視点とシステム. 看護教育 1998; 39 (4) : 278-283.

## Abstract

The Effect of Cooperative Learning Sessions Toward the Effective On-site Training Held  
by the Nursing College and the Teaching Hospital — From the Viewpoint of the Nurse

Ken Ryouke, Yumiko Iwasaki, Shiho Morita, Kasumi Iseto, Hisami Morikawa,  
Youko Yoshioka and Eriko Hanba

Department of Nursing, Kyoto City Hospital

We designed and implemented cooperative learning sessions for the nurse educator and practical trainer to provide quality education of students during on-site training with the purpose of studying together, talking together and exploring cooperatively. The purpose of this study was to clarify the effect of participating in cooperative learning sessions as evaluated by the nurse educator. The study was conducted by a half structuralized interview according to the focus group method. The nurse educators were interviewed, with their consent, on their experience with the cooperative learning sessions and the influence the experience had on student nurse training.

The cooperative learning sessions promoted the cooperative relationship, and deepened the understanding and affinity relationship of the practical trainer through the exchange of opinions and group discussions at the cooperative learning session. Participation in the cooperative learning session strengthened the collegiality of the nurse educator and practical trainer which helped provide a better environment for on-site training of the nurse students.

(J Kyoto City Hosp 2020;40(1):27-33)

Key words: Nurse educator, Practical trainer, Cooperative learning session, Collegiality, Working together-collaboration